「応援します！！ あなたの農業」

あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 ５６号　　平成３０年７月

発行元　福島市中町８番２号
公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

平成29年度農地中間管理事業の実績及び事業評価について

１　事業の実績について

平成29年度農地中間管理事業実績は、下表のとおり前年度実績を大きく上回り、機構貸付面積2,442haは都道府県別で全国第２位となりました。

平成29年度の事業推進に当たっては、「農地中間管理事業推進方針」に基づき、地方駐在員を県内ほぼ全域に配置し現場対応力の強化を図るとともに、人･農地プランとの一体的推進や重点地区における計画的活動、更に個別マッチングの強化を図るなど、関係機関･団体との連携を密にして事業を進めてまいりました。

これらの取組の成果が現れてきたものと考えておりますが、目標面積には大きく届いていないとともに市町村間で取組に温度差もあることから、更なる推進に向けて引き続き関係機関･団体のご理解とご協力をお願いします。

平成29年度農地中間管理事業実績(県全体)

	機構借入面積	機構貸付面積	うち新規集積面積
29実績 (28実績対比) (29目標対比)	1,887ha (168%) (35%)	2,442ha (171%) (46%)	907ha (146%)
28実績	1,121ha	1,428ha	636ha
29目標	5,300ha	5,300ha	

※平成29年４月１日から平成30年３月31日までに権利が発生した案件を集計。

平成29年度農地中間管理事業事業実績(地方別)

地方	機構借入		機構貸付	
	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
県北	148 (83)	8 (7)	186 (35)	8 (2)
県中	362 (87)	19 (8)	331 (90)	14 (6)
県南	84 (75)	4 (7)	110 (41)	5 (3)
会津	681 (400)	36 (36)	885 (617)	36 (43)
南会津	41 (37)	2 (3)	37 (20)	2 (1)
相双	248 (350)	13 (31)	569 (538)	23 (38)
いわき	323 (88)	17 (8)	325 (87)	13 (6)
県計	**1,887 (1,121)**	**100 (100)**	**2,442 (1,428)**	**100 (100)**

※括弧の数値は、平成28年度の面積及び割合を示す。
四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

２　事業評価について

６月８日（金）に、ふくしま中町会館（福島市）において、農地中間管理事業評価委員会（委員長:岩崎由美子福島大学教授）を開催しました。

農地中間管理事業評価委員会の様子

― 集積推進第一課・第二課

（一面よりつづく）

平成29年度の取組や実績、事業推進上の課題と対応策など、委員長はじめ４名の委員出席の下、活発に意見交換が行われました。

委員からは、平成29年度の実績は、当初目標を達成していないものの前年度を大きく上回っており、特に地方駐在員による個別マッチングや研修会での丁寧な説明、農地利用最適化推進委員等との連携、重点地区での計画的取組等が着実に実績に結びついてきているとの一定の評価をいただきました。

一方、「担い手に対しては、農地を貸し付けた後も、切れ目のないきめ細やかな支援が必要」「農外からの新規参入者に対しては、気軽に相談できる体制整備を」「多くの農業者から『農地中間管理事業をやって良かった』という声を聞けるようにしていただきたい」など、様々な意見がありました。

機構としては、事業評価委員会での意見を踏まえ、今後の推進活動に活かしていく考えです。

農業担い手組織との意見交換会を開催

７月９日（月）に、福島テルサにおいて、一昨年に機構と連携協定を締結した６つの農業担い手組織の代表者との意見交換会を開催しました。

意見交換会は、現在国において農地中間管理事業の５年後見直し検討が行われていることから、本県においても、担い手の視点に立った本事業の検証及び一層の活用促進に向けた検討等を行い、見直しに反映させようとするもので、菅野理事長及び芳見県農林水産部次長のあいさつ、事務局からの農地中間管理事業の情勢説明の後、意見交換を行いました。

意見交換会の様子

意見交換では、「事業制度の周知が不十分」「市町村・県域を越える担い手のエントリー手続きの簡素化が必要」「人・農地プランの区域設定に当たっては、地域の状況を踏まえた柔軟な考えが必要」「農地集積関連事業の一本化が必要」「農地の集積は手段で、目標とする経営の安定化に向けた総合的な支援策が必要」「市町村は農業の将来ビジョンを提示すべき」「安定的・継続的な農業政策が必要」等の貴重な御意見をいただきました。

機構としましては、自ら改善できることは改善するとともに、国に対しても積極的に提言を行い、担い手への農地集積等が一層進むよう努めていく考えです。

なお、連携協定については、本年度末で期間を満了することとなっていますが、各組織代表者の合意により継続することになりました。

新任職員の紹介

（平成30年４月１日付発令）

◇集積推進第一課 課長

二階堂（にかいどう） 英行（ひでゆき）（前県環境保全農業課 主査）

ひと言「農地中間管理事業を通じて、地域農業が明るく前に進むお手伝いができればと考えております。よろしくお願いします。」

◇集積推進第一課 主事

後藤（ごとう） 未来（みき） 【新規採用】

ひと言「本県農業の発展と農家の方のお役にたてるよう頑張りますので、よろしくお願いします。」

青年農業者等育成センター

４Ｈクラブと農業短大生が交流！
～ふくしま農業アカデミーが開催されました～

７月６日（金）に、福島県農業青年クラブ連絡協議会の主催による「ふくしま農業アカデミー」がアグリカレッジ福島（農業短期大学校）で開催されました。

この催しは、若手農業者である農業青年クラブ員と農業短期大学校生との意見交換を通じて就農意欲の向上、農業の課題解決に向けた考え方を学ぶとともに、相互に将来の本県農業を担う広い視野を養うことを目的として開催され、２年生約50名とクラブ員13名が参加し、「食糧の廃棄を減らす」というテーマで、グループディスカッションを行いました。

まず、食材が大量に廃棄されている写真を見て、感じたこと、考えたことをグループで話し合い、意見をまとめました。そして、課題解決方法についてグループごとに検討しました。

写真を見て考える学生たち

グループディスカッションの様子

写真を見た学生たちは、食材が捨てられる前に加工したり、堆肥にして利用したいという意見や生産者が作りすぎたのか、あるいは業者が仕入れすぎたのかなどの感想を述べていました。また、解決に向けては、廃棄を出さないように生産する、廃棄する食材を加工して利用するなどの意見が出ていました。

後半には、Ｂ級品の食材をアイスクリームへの加工に取り組んでいる東白川４Ｈクラブから６次化についての紹介がありました。６次化に取り組むことで廃棄する食材を活用し、付加価値をつけて販売することができるという内容でした。

意見交換を通じて学生からは若い農業者と交流できてよかった、初めてグループディスカッションをしたが新たな発見になったなどの感想がありました。生産や流通の面でも減らすことができる「食糧廃棄」について考え、農業の果たす役割を再認識でき、学生にとっても、クラブ員にとっても、大変有意義な時間になりました。

地域マネージャー便り

福島県農地中間管理機構
いわき推進拠点
地域マネージャー　渡邊（わたなべ）　弘幸（ひろゆき）

平成30年度は農地中間管理事業の５年目、いわゆる第１期（？）の最終年度。

私がいわき農林事務所に勤務すること、早３年目となります。当然のごとく、次年度からの事業継続が大きな課題であり、制度の中身の充実を望まずにはいられません。

さて、我がいわき市は、１市１事務所で、大変恵まれた環境で業務を遂行しております。農林事務所農業振興普及部のリーダーシップのもと、定例の担当者会議を開催し、県・市・農業委員会・ＪＡと機構の５者の連携がすばらしいと自負しております。関係機関の皆様には、本紙をお借りして、感謝！感謝です。

機構の役割は、農地と農地をつなぐ農道であり、田に水を引く水路であり、出し手農家と受け手農家を結ぶ『仲人』でもあります。出し手が安心して機構に貸す、受け手が経営の効率化を高める、地域の結束が強まるという『三方よし』をめざしております。

農業者の声

「農」を進化させて「食」に革命を起こす！

須賀川市　小野寺（おのでら）　淳（あつし）さん(42歳)

15年のサラリーマン生活の後、青年就農給付金（準備型）を活用し、郡山市が運営する園芸カレッジの１年間の研修を経て、昨年農家になりました。しかも、同時期に農家となった兄と一緒に法人化。周りからは、応援してくださる方もいれば、ただでさえ厳しいと言われる農業、まして農業技術もない、右も左もわからない状況からでは批判や呆れられることさえありました。

農業において経験値が非常に大切なことは重々理解しております。しかし昨今の気象変動、労働力不足、農地等の課題を踏まえても、ある意味、固定概念にとらわれない発想ややり方が必要になってきているのではないかと考えます。

表題に掲げている「農」を進化させて「食」に革命を起こす！とは、当社の経営理念でもあり、「農」を進化させるという部分は、技術の根本を変えることではなく「農業は儲からない」、「機械や設備費が莫大に必要」、「人手が必要」、「広大な農地が必要」などの、今までの農業の常識を疑い、新規就農者だからこそできる農業があるのではないかという考えからでありました。

研修期間中においては、市の運営する施設だったため、市場動向や病害虫などの情報がいち早く入手できました。それを基に、圃場条件を分析し品目を選定したり、作付前には産地に赴き情報を収集したり、それをデータ化したりと、夢中になって取り組みました。今思えば、これは新規就農で法人化する等の大きな目標を掲げ、不安があったために打ち込めたことだと思います。功を奏したことと言えば、2018年オーガニック・エコフェスタという食と農の祭典で、夏人参栄養価部門で最優秀賞をいただくことができました。もちろん私達だけでは受賞することはできませんでしたし、相談に乗ってもらったり、ピンポイントなアドバイスをしていただける諸先輩方や地元の方がいてくれたおかげだと思っています。

今後も関係いただくすべての方に感謝し、地域に根差して農業を盛り上げていくとともに、農業を目指す方々の道標となれるよう頑張っていきたいと思います。

編集後記

私の実家で収穫した高田梅を利用し、今年は初めての梅酒と梅ジュース作りに挑戦してみた。

梅ジュースはすでに出来上がり、飲んでみたが、梅の酸味も残っていてさわやかな味で、初めてにしてはうまく出来たと思う。梅酒はこれから出来上がるので、完成が楽しみだ。

梅のクエン酸には疲労回復や夏バテ防止の効果があると言われている。今年の夏は特に暑いので、梅ジュースと梅酒を飲んで乗り切りたい。

（荒川　真美）

お問い合わせ
あて先　〒960-8681
福島市中町８番２号 福島県自治会館８階
公益財団法人福島県農業振興公社　総務課
ＴＥＬ　024(521)9834 FAX 024(521)8277
URL http://www.fnk.or.jp